〈資料紹介〉称名寺聖教『往生礼讃光明抄』翻刻

佐竹真城

称名寺聖教『往生礼讃光明抄』翻刻

佐竹真城

本書は、神奈川県称名寺所蔵(神奈川県立金沢文庫管理)になる

解

題

国宝称名寺聖教のうちの一書で、覚明房長西(一一八四―一二六六

以下長西と略称)の撰述である。

る

教学は諸行本願義と評され 弟であり、 も阿弥陀仏の本願に誓われた行であると主張したことから、 念仏一行による救いを説いたのに対し、 弥陀仏は本願に称名念仏による浄土往生を誓われたとして、 長西は、 後に九品寺流と呼ばれる一派を形成した。 法然房源空(一一三三一一二二二、以下法然と略称) 法然門流においては異端視されてき 長西は、 念仏以外の諸行 法然が、 その 称名 の 뎨 門

れは偏に長西自身の著作のほとんどが散逸していたことに起因すった。そして、そのような異端的立ち位置にあったことから、九品寺流外の諸師の所伝、すなわち第三者の説に依拠したもは、九品寺流外の諸師の所伝、すなわち第三者の説に依拠したものであり、信憑性という部分で問題がないわけではなかった。とから、九品によった。そして、そのような異端的立ち位置にあったことから、九品によっている。

部 貴重性および重要性は誰もが認識するところでありながらも、 に大きな意味を持つものであった。 含む九品寺流の典籍が複数顕出されたのである。 西をはじめとした九品寺流研究においては勿論、 その後、 を除いて未翻刻のまま今日に至っており、 昭和初期に金沢文庫が調査された際に、 しかし、 本書もその未翻刻典 顕出された史資料 このことは、 中世浄土教研究 長西の 撰 述 長 0 を

籍の一つである。

ある。 記され、 た本であることが知られる。 て称名寺の住持も務めた湛睿 と見て大過ない。 していることや、 本書は 撰号を欠くものの、 表紙右下には 表紙中央に それを永源なる人物が書写し、 説示内容の一 「往生礼讚明抄三巻内第一 「湛睿」、 同じく「光明抄」と題する典籍を撰述 (一二七一一一三四七) 致から、 表紙左下には 前述した如く長西の撰 「永源 華厳宗の僧にし が所持してい との標題が (花押)」と 述

察する。

れている。 此 ら中夜讃 内」とあり、 けにして見出しを立て、 讚偈」(『大正蔵』 上) まで、 願往生一十九拝当日没時礼」(『大正蔵』巻四十七・四三九頁下) を向けると、 ることから、 しては巻二と巻三の合冊本が伝存しているが、 讚偈』(以下『礼讚』と略称)の文言に対して、「●●等事」と小分 内容は、 |増上誓願可憑| $\widehat{\pm}$ 巻三は後夜讃 書名が示すように、 すなわち 巻二は日没讃 巻二の奥書には「礼讃三巻内第二」 本来は三巻本であったことが分かる。 礼 巻四十七・四四三頁上)から後序 (『大正蔵』 の 「余悉同上法」(『大正蔵』巻四十七・ 六時の礼讃文から後序にかけて一通り註 註釈を施したものである。 (願生偈) (大経) 巻四十七 善導(六一三—六八一)撰 の の ・四四八頁上) 「第四謹依天親菩薩願往生礼 「礼讚阿弥陀仏十二光名求 表紙には (後述) との一文を有す までが挙げ 称名寺聖教と 所釈の文に目 の 四四三頁 『往生礼 「三巻 「既有 か 5

いることから、おそらく末尾の一、二丁あまりが欠失していると推ことが窺える。なお、巻三は最後の註釈文が中途半端に途切れてが施されていることが知られ、同時に巻一は前序の註釈であった

述べてきた義 の釈であると考えられている。 云 細については、 転用が認められるのである。 る理解と一致する。また、 れらの念仏理解は、 じることも妨げない理解を示している(三十二丁左)点であり、 ことを述べながらも、三業にわたる念仏であることから観念に通 で観念と定義している(二十五丁左)点や、 真身観所説の る否定的な見解も多く見られ 第三祖良忠 | 執持名号」(『大正蔵』巻十二・三四七頁中)について、 向称名・一向観察・広亘三業という三つの理解があるとした上 本書の説示として特徴的なのは、 『往生礼讚私記』(以下『礼讚私記』と略称) ではじまる私解が散見されるが、 (一一九九—一二八七)への影響も看取できる。 「念仏衆生」(『大正蔵』巻十二·三四三頁中) 筆者の別稿を参照されたい。 すなわち長西義に対して「(此義) 長西の 他の 〈浄土疑芥〉 その他、 そして、 阿弥陀房の教学を知る上でも、 〈浄土疑芥〉 たとえば、 これは長西門弟の阿弥陀房 本書の特徴的説示内容の において一貫して示され その私解には なお、 同様、 『阿弥陀経』 『観無量寿 には、 不 本書には、 浄土宗鎮西義 爾 称名である 本書からの 直前まで の念仏に、 等と述べ 経 所説 すなわ 私 長

と位置づけ、

『礼讃』註釈史における最初期の撰述であるとする点

本書を現存最古級の

『礼讃』

註釈書

ある。

今後の研 『聞書』

究 の

が待たれるところであるが、

本文内容を踏まえた詳細な検討を要するものであり、

いる点から、

『礼讚』

註釈においても本書の成立の方が早いと考え

【凡例】

両書の成立の前後に関しては、

ることも可能であろう。

に異論はないだろう

西と門弟との関係を窺う上でも、 大変に意義深いといえる。

聞書』 は長西の できないことと、 聞 も康元元(一二五六)年の奥書を有しているから、 が知られている。 記』二巻(一二七六年頃成立)や、 書を有していることから、 三五五 本書の成立時期は、 書写奥書の年号をそのまま成立と目することは一概には首 一 巻i が最古の 註釈書のうち成立の早いものとしては、 『観経疏光明抄』 (以下『礼讃聞書』と略称) 撰『往生礼讃私記』三巻(一二九八年以降成立)など 『礼讃』 称名寺聖教に含まれる良忠の また、 巻二に「文永五年八月十六日」との書写 称名寺聖教のなかには良忠の『往生礼讃 註釈書であると見ることができる。 一二六八年以前に遡ることができる。 の影響を看取できることが指摘され 浄土宗西山義の行観(一二四 なる一書を確認でき、 『観経疏聞書』 良忠撰 表面上は 『礼讃私 『礼讃 しか L 7 に 肯 か 奥

半葉十二行、

一行二十八字内外である

も大いに活用されるべきであると考える。 加 上 本書は長西研究のみならず、 九品寺流研究という観点で 加えて、 良忠撰 礼

頭に行数を記した

定では縦寸が二十八・六糎、 ると、縦寸が十三・六糎、 三:十八丁)となる。 混入であると考えられるから、 T, く資することができる史料であるといえるだろう。 私記』への影響も看取できることから、 なお、 巻三:十九丁)にわたる。 本書の装丁は綴葉装であり、 法量は、 横寸が二十・ 横寸が二十・七糎であった。 ただし、本書の十六丁は他本からの 『称名寺聖教目録』(一〇五頁) 実際は三十一丁 (巻二:十三丁) 本文は三十二丁 七糎とあるが、 中世浄土教研究にも大き (巻二:十三 筆者の 体裁は、 によ

翻 刻

①本翻刻は、 神奈川県立金沢文庫管理 称名寺聖教 『往生礼讚光明抄』 [請求番号: 94 函 3) (神奈川県称名寺所蔵 を翻刻したもので

③各丁数の切替は ②漢字は新字の通 刻した。 行体に統一 で括って示し、 Ļ 略字 (合字) 行取りは原本に準じて行 は正字に戻して翻

223

引いていずい。豆はこれでいる通り翻刻したが、スペースに

【表紙】

合も行頭には付さなかった。び問の前、科段の前等に適宜私的に付した。ただし、何れの場関しては必ずしも原本にはよらず、原則として見出しの前およ

入替指示等は、原本の状態を註に示した。
⑤補記や訂記・抹消は本文に反映して翻刻した。ただし、複雑な

⑥翻刻に使用した各種記号が示す意味は次の通りである

「□」→湮滅(字数が判断できる場合は字数分を示し、字数が判

断できない場合は「口…口」で示した)

「……」→本文に付された省略符合箇所

⑦引用文については、管見の範囲で確認し得た出典を ()内に

割註で示した。

⑧写誤や脱字など、意味が通らない箇所が散見されるが、本翻刻

校訂はしなかった。

では史料性に重点を置き、

明らかな誤りと判断できた場合でも

往生礼讚州抄三巻内第三首日沿

永源(花押)

本文】

(一丁右 (巻二

01後夜 日没

02礼讃アミタ仏至日没時礼等事 疑云以日没時,為六時始,有何意

盐

04日没時,有何意,歟答大経上卷故為始,歟 取中下懺悔等事03答日没処所帰日故也依観経日想観等也 又礼讚 十二光名,当

05疑云中下者如何答要略広中要始故指 略広;云中下;也

06南无釈迦牟尼仏等一切三宝等事

疑云礼釈迦等」者豈不違无

224

湛睿

08 07 余之義= 答礼者敬礼也俱舎(譽二,『大正戲』)云稽首接足故称敬礼文記(『俱含論記』巻四 歟答非 時 一時 行法。 故全不可違也 又礼者其 相 貌如 何

真性) 云稽之言

09至首之言頭以己之尊接仏之卑故称敬礼文

12 10 11答上約釈迦一代化儀,今約尽十方別体三宝也 約報 微塵刹土中一切三宝等事 身 - 敷云 又福田 无量与功徳无窮 疑云上所礼中云ー 有差別 切三宝重拳之, 歟 私云上約応身 | 歟答无量約所礼 _ 今

功徳

△ 丁左 (巻二)

02 <u>=</u> 01无窮約能礼功徳 世. 故福田 敷 重云功徳无窮 私云上四 限ル 釈迦 也 会= 故只福田无 々舎利^至解脱分善根等 量。 一今通十方

事

04或有所説経云 舎利 03疑云舎利者三宝中 何摂歟答或摂仏宝 一即宝筺印タラニ等也又ヒサ門天所持塔 或摂法宝 也 法事讚 へ 人 仏 也

舎利

05 此, 有, 摂。 法宝 굸 K 又依今礼讚等行階解脱分位 | 歟答不爾 只 得,

06脱分善根 一云也即往生業成就也 尋云解脱分位 者何等歟答小 乗=

五停

07 死有過涅槃有徳 心已上也大乗= ·十位已上也俱舎論第十八(『トムエ蔵ム 巻三元) 云若聞テ _ 身, 説。

生

无量.

寿仏光明顕赫已下至称其

分

徳

証生々々々也

切

諸

毛竪流涙当知 殖解脱品 分, / 善取章 ^{(意}俱舎頌 疏卅三(『天正蔵』巻四一)云又施

食 _ 持: 戒

08

09等深楽解脱 _ 廻; 求菩提 |願力所持便名種殖順 解脱分 也有云依教

不

10定也知涅槃徳 |領解也起愛楽解脱分也此即証浄| 心也 問日故号ア

3

11 タ.... 摂取 不捨故名アミタ等事 尋 云引き 観 経 釈故名アミ タト

其

意如 何

12 答 同, 一仏利益故小経 可説摂取 不捨 観 経可 ·説故名アミタ 而ョ 経=

二丁右

(巻二))

01略互 頭 也為顕此意以 経 釈得名之義 也 付此 注文 有 五増上

縁

ミタ

02経及観経云已下至故アミタ護念増上縁也正摂取不捨即護念縁也

生即摂

03又釈迦仏及十方已下至定得往生, 摂生々々々也正 一命終之後定得往

06縁也五 05滅罪縁 04生縁也 滅即 也 三如 一四若在三途已下至皆蒙解脱 无量寿経説云已下至善心生焉 |見仏縁也正見此光明 滅罪々 ベタタ也正 正、 郎 三垢 見仏 消

挙今文

10何重引之 | 歟答上 | 以光明釈名義今挙利益 | 也

11今既観経有如此不思議増上勝縁摂護行者等事 疑云四縁中増上

縁歟

12答爾也四縁者一因縁二縁々三等无間縁四増上縁也等无間縁者前

涅槃為

〈二丁左(巻二)〉

01後涅槃,成緣,也此相続也俱舎付增上緣,開有力增上緣无力增上緣

也

02大乗 云々順増上縁違増上縁 | 也 | 尋云此注意如何答釈十二光利

益」也付利

03益釈五増上縁,也而引 アミタ経,観経釈得名之由,也 尋云付観

経文有五

04増上縁,者指何文,歟答地観文(魙聲: 『芳正叢』) 云除八十億劫生死之罪

宝楼観(譽一二三四三頁下) 云除无

05量億劫極重悪業花座観(譽景/『大宝鷺』) 云滅除五万劫生死之罪像想観

06无量億劫生死之罪,観音観(鸞慧,[於]] (云浄除業障除无数劫生死

之罪

07勢至観(竇堂: 宗三賢中) 云除无量劫阿僧祇生死之罪, 下品上生(『爨餐! 『大

臺門)云除五十億劫生死

08之罪,下品中生(譽書:雲灣) | 云除八十億劫生死之罪,下品下生(景豐)

灣点:)云於念々中除八十億劫

09生死之罪流通分文(竇)是「於三國大學」)云但聞仏名二菩薩名除无量劫生死

之罪 此等即

滅罪増上縁也二真身観(ᄛ墨:『紫墨』)云光明遍照十方世界念仏衆生

摂取不

10

11捨普観(竇景 宗寶) 云无量寿仏化身无数与観世音大勢至常来至此

行人之

12所流通分(靈光: 宗宗麗) 云観世音菩薩為其勝友; 此等即護念増上

縁

也三像想観(譽三十三四三頁上)

(三丁右

(巻二))

01云見像坐已心眼得開,真身観(纖,[光]] 云見此事時即見十方一

切諸仏 九品見

02来迎仏,此等見仏増上縁也地観(續聲,『於寶寶』)云捨身他世必生浄国

心得无疑」宝

03楼観(『觀聲』『古三真上) 云命終之後必生浄国 | 花座観(響響』『大正蔵』) 云必定

当生極楽世界,真身

04 観云(臺灣、『大正廣』) 捨身他世生諸仏前普観(臺灣、『大正廣』) 云当起 生於西方極楽世界雑想 自 贮

05観(覺達: 景壁)) 云若欲至心生西方者九品文云皆云往生此等摂生増

上縁也処々仏

07十二光仏説十二仏二 06 告阿難井提希等者証生増上緣也此釈尊証誠也大仏頂経(譽五宗王憲 々仏一々出世 |也真言経也真言| 四 . 智, 説; 四仏、

08知根説六如 来, _ 也 南无西方至アミタ仏等事 疑云上一礼畢何重

釈論

09答上為所礼境 |也今為請||加備 _ 也 哀愍覆護我等事 疑云為引

経文

10 為私偈頌 敷答勝鬘経文也曇鸞讃アミタ仏偈 毎= 一举此文今依

11 此也 者法身也万善為種 尋云令法種增長者其義如何答上宮王疏(朦朦露霧疏(『天正) 云法

12共持花台授与行者等事 疑云共持之義如何答相従釈也例如天台

(三丁左 (巻二))

01釈(『観音義篇』巻上、『大正蔵』)云妙音観音而来東方 一也大智(『観経義疏』巻下、『大正蔵』)

云観音勢至二菩薩持花台 来

02為報仏恩故等事 疑云可云 一菩薩恩 何云仏恩 歟答爾也但 仏恩、

者

04 03事生悞歟故法成与少経蔵沽本 无仏字 為正 | 歟答无仏之字 | 本正也 普為師僧父母及善知識等事 _ 也 又或本无仏之字 疑云 何

為

06師僧者教授也善知識者同法与外護 05師即僧為師 与僧 | 歟答師即僧也 又師僧与善知識同異如 _ 也 又三障者何等歟答煩悩業 何答異 也

苦也

07 至心懺悔等事 疑云至心者心之分斉如何答至誠 心也真心徹 到 分

也

切

諸罪

水根等事

疑

苦也切遍也

此、

人

08 願滅 云一切者文点如何答一

師釈也

09又一切者何等歟答指上師僧父母等,云一切也故 切者約師 贈僧等

諸者約

10罪数也 自他 安楽因等事 疑云安楽国土因歟答爾 也 切 臨

時等事

11疑云一切之言如何答如上指 僧父母 等 云 切 也 勝 縁勝境 等事

也

12縁与境有何別

一歟答緣約顕知識等

境約冥聖衆等也有云縁者仏

願

疑云

(四丁右

02 八 戒 01観音勢至十方尊等事 者有臨終見願 等也釈迦爾也 疑云十方尊者誰歟答十方諸仏歟諸仏 仰願神光蒙授手等事 疑

云

04 03光与授手之義如何答摂取行者 也故今為滅諸障 ·放神光也授手者近付義也梵網経(『☆≌媽鸞喜·)]云 時放慈悲 者降伏悪縁時放威神光

人持戒諸

05 導 云_^ 仏授手文天台釈(獻』巻四○·五八○貞上意)) 云隣釈 公云隣次 也 真 言: 授手者 引

06懺悔廻向発願已等事 疑云上来五行懺悔文段何 云廻向発願等 歟

07懺悔功 奶廻向 所 // | | 求/ | 所= 也此即 **:懺悔助成也此五行共為滅罪**/ 故猶懺 悔

分也

後

虲

答以

08 例如 Ŧi. 海 也 莭 如 略 懺 悔也 次作 等事 疑 云作梵之言者為 生

10 09答結前也説偈発願生後也 律= 又梵者何義歟答清浄義也 出宝性論等事 尋云論主誰人歟答 滅罪垢故也

12又有境本,此悪也 願得離垢眼等事 疑云離垢眼者何位所得歟答 11

云懺浄

也

又或本云作梵竟何為正歟答作梵竟本可為正

也

〈四丁左

(巻二)

02疑云発願也 01今不可約位,也只此滅罪見仏故云離垢眼 如 何答従 本意 也 又礼讚已前 也 可 礼懺已 用 三礼 加 切恭敬等事 何答爾 也

03唐習所作已後用ニ 礼 也 帰仏得菩提道心恒不退等事 疑 云道 少

但大

不

04 退者能 帰之所得 | 敷所帰之仏徳敷答能帰之所得 也 又此三 帰 者為

経論 証 為私解釈歟答六時 礼懺儀 経 一大任也一卷也 1 帰仏 得菩提道 心

05

引

常

不退ルサナ因帰法サハ若得大総持門ルサナ因帰僧息諍論同入和

06

合 ル

07 文= 海 ルサナ因文 已上三帰智者大師在国清寺 玉泉寺= 出り _ 此 文, 浄土礼

10 09 08引導之釈 也 意如何答サ 持滅罪生善二 也 ハ若者梵語此云智恵也云大者簡小乗 故云総持也又門者以智恵 帰法サハ若得大総持門等事 為門 疑云サハ若亦総持 出生死 一言也智力 入涅槃城= 恵既二 起,

11 12 論諍論 帰僧息諍論同 ,故也和合者息諍故也四人已上和合僧也 入和合海等事 疑 云息諍者意如何答止 我 マ所ョ 无戲

(五丁右 (巻二))

03 02 01 有云上拳法体今勧進之也仏教者仏宝法宝也賢聖者僧宝也有 願諸衆生五一 切 賢聖等事 疑 公子上既三 云拳三 帰畢 何 重 勧 帰 | 歟答 云

南 此₌ 発願也 翻 度 尋 云和南者何翻之,歟答玄惲 毘尼討要(四四・三七九頁上)云和

我ト _ 也]或稽首義也和 上者翻依学 依彼生恵 故_ 十節云和-上, 也

04

06

存捨受義一歟只始終楽受義歟

又今発願文者為依経論説為私

06禅三 05 人間忽々営衆務等事 疑云四 行偈者何経論文歟答初二行依坐

07死賊至」忽々 ットシテ 営衆務 |不覚日夜去||文次二行依双観経歟下巻(臺)||連

不観苦不覚

08宜各勤精進 努力自求也依此二経取意私結給 □上四) 云 疑云滅難期者意如何答已消

09

也

如灯風中滅難期等事

亦生事難期

芸

〈六丁右(巻二)〉

11 10 廻六道 有 時云事也 云消難期 云不定 云也 _ 也 忙々六道无定趣等事 強健有力等事 疑云健有力者何等歟答若盛 尋云无定趣者意如何答

12大在厳論(『天莊厳論経』巻三二七 「原大)| 云盛年 无患時懈怠 不精進 等意也 É

(五丁左 (巻二)

策自励等事

05 03 02疑云上既発願畢今何重発願歟答上別今総也 04衆現前等事 01疑云策与励有何別歟答策身,励心。也 師釈 (『群疑論』 巻四、五 何別歟答顚倒者僻見也錯乱者妄念也失念无記也 有云今師意不 疑云如入禅定之義如何答身心快楽分斉喻也如感 |『藍』||者将命終位楽受||故身心快楽|||*** 願弟子等至心不失念等事 又顚倒与錯乱有 如入禅定聖 如入三禅 楽

> 08 07 解釈 至上品往生アミタ仏国 | 歟答天台発願文在今文| 者願 我臨欲命終時 私云普賢願意也謂自 即 得往生安楽国 願 第子

(正蔵』巻一〇・八四八頁上) 意也自

09 到彼国已至々心帰命アミタ仏者我既往生彼国已…… 生界(『般若訳華厳経』巻四〇、『大)意也 . 利 楽 切 衆

12答生死海无辺等者即无常義也 10抑入仏道発願者必可依普賢願海 11経論文歟答阿蘭若習禅経文也 汝等勿抱臭屍臥等事 又此偈中无常之義不見如 故也 煩悩深无底等事 疑云何 何 疑 云何

04 也 09 08答曰漢魏以来謂甲夜乙夜丙夜丁夜戊夜又鼓一鼓二々三々四々 07終也彼北魏時 06此昼夜総名也 05而今答自昼時 03即无常境也 02有云在超日恵明経一云 01 之署 五々亦云一更二々三々四々五々 経論文歟答菩薩呵睡眠経文也大論引此経 又時光者何等歟答時剋云光陰 時光遷流転等事 |遷転|至|夜五更初|云也或時云風影亦云風光|也 夜分五時,也顔氏云或 忽至五更初等事 又此偈中无常之義不見如何答説不浄相 疑云何経論文歟答菩薩蔵経文 疑云指 皆以五節西都賊云衛 屋陰无昼夜也此即陰陽也 同一夜何故更 何時,云五更初,歟答寅 菩薩呵睡 眠弟子 云云 云何所訓

10所以爾者仮令正月建寅斗 11指午凡歷 五辰冬夏之月雖復長短 ,柄夕則指寅 ?~ 参差然辰間闊 □曉則午□矣自寅 ク嬢と シヒロシクワットリ

不至四 進退常在五六之間 恒与死王居等事

六丁左 (巻二)

01疑云死王者何等歟答无常云死王 也馬頭 羅 刹 経= 見2

02 平旦偈等事 生、 疑云点如何答難知但平者生也故云生旦 工事歟屋ラ 云

05 04 03 夜ョ 有云在十誦律。也少門法者総 瓦ョ 所取 云死 故命塵始故云生旦 |依之起道心唱此文 | 云 歟 仏道 欲求寂滅等事 行也有云比丘造舎度々偸国王 答僧祇律文也

06 沙門法者顕揚大戒論第六(『共三職』巻七四) 云涅槃経邪正品云於仏法中

10

沙門法

09 08乃至嗅香 07者応生悲心覆育衆生乃至蟻子応施无畏是沙門法遠離 不生欲心 ,是沙門法。不得妄語,乃至夢中。不念妄語, 乃 7至夢中 = モ 亦復如是々沙門法文 私云此経意者 是沙門法 飲 酒 者応

12 10覆育衆生二者応施无畏三者遠離飲酒乃至嗅香四者不得妄語 一者念知日月其月若大小一 乃至夢中五者不生欲心乃至夢中已上五代是沙門法也制教六念者 一者念知衣鉢道具有无三者念知夏臘居

七丁右 (巻二))

02□力堪不堪 03 ①新四者念知食所聚落 五者念同別食若一人食若大六者念身康羸 の可住自由ニ 云也 精麁随衆得等事 今日晨朝各誦六念等事 疑 云随衆之義如何答随徒衆 疑云為化教六念 |得之|不 為制

教ノ

05 黒白 月月 04 六 念 06念我於仁治三年十一月廿五日午初分,受菩薩大比丘戒我今无変若 日乃至三十日第一念今食僧常食无請所若乞食隨樣可唱 第三知食所法

08 過 一 07 反随数可唱第四念我今三衣鉢具足若有長衣鉢等 日等可唱,若不具者随有,可唱第五念我今无別衆食縁 長未説浄

09縁者病若加□日等第六念我今无病依衆行道 | 若有病者我

12四分律比丘戒本疏見歟四分比丘戒本疏≒玄奘弟子定賓疏□…□ 11二念知食法三念知戒臈四念知衣鉢五念知同別食六念知病患取意

〈七丁左 (巻二))

01 戒中 展転食戒篇之内釈(『四分比丘戒本疏』卷下、『大正蔵』) 1云…… 便解僧祇口念之義 ·古来行事之家於此

02准彼僧祇第十六巻義准 応云第一念此月大 n白月 月或黒

念

此

03 念意言黒白 総論 | 若論数日 _ 分 一 也 第二

故

05

意者

日之中当

所得

_ 食=

04准僧祇今日所得

07我当食辦等食,直也准此,不実施与余々人々不赴檀越虚設不同此的意我今日所得,食施某々甲々沙弥,々々於我不許離沙弥於我不悟此愈也

9故応念云第二念不肯請食至於中時,若有多請意欲背者別須(名言為計 177 月末 187 月 187 月 187 月 187 月 187 月 187 日 18

10

捨請

|如前応知若有

· 病縁応云第二念我有病縁応背請食 | 余

11縁准此第三念某年歳次甲子尋之応知正月乙丑朔准知 二日景

〈八丁右(巻二)〉 12宣海知師一尺木二尺影受具足戒,未有夏科五等時木影長短随時 12宣海子等卯時一尺木二尺影受具足戒,未有夏子五等時木影長短随時

03受持我当受持長衣已說净 02鉢具足。会未具我当具余衣及鉢随關称之 02鉢具足。会未具我当具余衣及鉢随關称之 02;者而云僧伽梨醬口羅僧已具安多。已受持持,者云僧伽梨未 02;者而云僧伽梨醬口羅僧已具安多。已受持持,者云僧伽梨未 01若受戒時天陰。无日,但云卯時初分受具足戒,中分後分第四念三衣

05療初念為知説戒日時亦念无常 日月遷謝 厭離生死 第二念の応別衆食余縁准此称之 リーン・ スキコエラ カーム の応別衆食余縁准此称之 第六念我今无病依衆行道若有病縁 応云 4或有別衆食縁 | 応云我有病縁 第六念我今无病依衆行道若有病縁 心云

99中間犯一提八吉,由唯初家是其前請、余之九家の後,犯吉羅,謂若受 十 請,背第一請,於後九家,随受食者咽々の念遵 和合行,第六念遵不放逸,衆行成弁 准律背前,犯提,背五、1990年

10 11 悉是後 誦六念文也向文二云読 故若背第二家 工 ペ゚向初家゚_゚ 向 _ 云 誦, 食咽々九吉文 也 又无常之義不見 又誦之義如 加 何答 何

六念初念

12釈云戒本ロ也(曾)、『云豊徳孝)亦念无常 | 日月遷謝厭離 生死 | 云 総无存 ニュース | エスペン ト くり へり

略□…□有也

〈八丁左(巻二)〉

01人生不精進等事 疑云何経論文歟答尸迦羅衛経文也

02初夜 第二沙門善導等事 疑云標宗 日没初夜共无善導

03之言,相違如何答初夜偈終私釈流通文,故也初有私解

04南无至心……アミタ仏等事 疑云南无者至心帰命義也何重言

歟

答梵漢並

05 釈事常習歟 ミタ智願海

06者総別中「何歟答総別共並挙也但別願為面」歟(又聞名者称名歟)の釈事常習歟)ミタ智願海……皆悉到彼国等事(疑云今智願)

07答不爾,只是聞教主名帰本願,也其上可有称名等,也 於此世

界中

不退

10

者指何位

| 敟答位行念三不退共挙也

又小行并小福者分斉如

何答

上在

09是一往举数分,也故異訳経云七百廿億等,也此約釈迦所化,數 又90是一往举数分,也故異訳経云七百廿億等,也此約釈迦所化,歟 又08皆当得生彼等事 疑云此界往生菩薩数限只六十七億歟答不爾,只

12又已入不退菩薩願往生有何要`歟答此有二意一為趣下位`進上:上輩 上輩 上語 上語 上音 人士信菩薩也寂云小行菩薩 己入十信熙連以上

也論注(學下、『天正蔵』巻

位

13云未証浄心菩薩者初地已上七地已還諸菩薩也……此菩薩願生安

楽浄土即見

〈九丁右 (巻二)

01アミタ仏口々々々時与上地諸菩薩,畢竟,身等法等龍樹菩薩婆薮

頭菩薩年

20願生彼,者当為此,耳文二恐第七地大寂滅,故也同注下(ﷺ 戊戌回0百)

云問日答日菩薩於

於

03七地中, 《大寂滅, 上不見諸仏可求, 下不見衆生可度, 分捨仏道証

06有三義,一自熟二熟他三本緣云,此義未検本説也有云涌出品文句

云

05生安楽

見アミタ仏

04

実際

|爾時不得十方諸神力加勧即便滅度与二乗||无異||菩薩若往

即无此難是故須言畢竟平等云々有於大聖往生

07法性土菩薩来穢土,故自熟々他本緣云《新懷云自熟者応身熟他者

08報身本縁者法身也又法身般若解脱,取意若此意者浄穢相違

09一切諸菩薩……稽首ミタ尊等事 疑云此三行偈頌何事歟答頌見

仏供養

11供養謂上二句口嘆供養也浄影(紫紫珠 (東京) まで利他中恵日照世10益;於中;上二行明外事供養謂花宝香衣天楽等也下一行明内事

化人,生知恵

12能開暁照 世如、日教人,生解,名照世間,照除生死化 人,離障生死。 《 5 』 5

(九丁左 (巻二))

01覆障従喩₁名雲₁身敬可知₁☆ 見彼厳浄□……願□国亦然等□

02疑云此一偈頌何事歟答遠(紫紫紫 卷下 『大正》云見上求願文顕 司

知

又或本云无量口

03今云无上心何為正, 歟答无上心可為正, 歟有道理,故

応時无量尊……踊躍大歓喜等事 疑云此二偈頌何事;歟答此ミタ

説 法, 04

05前相也遠(ﷺ巻乗車) 云ミタ如来現相発起文 又仏口光定益二

06衆,相違如何答爾也但今於浄土仏,只自然嘆 光従口乗,歟而今云,一切天人

出也不可

簡

大小1也

07口光益小乗,者於穢土仏,分別也有云今光従口,出説法前相表示也

08光従頂入大乗授記相也又花厳意仏光自頂,入自足,出授記取意

09又廻光者意如何答挙身光還廻身,故云廻光囲繞身,也

10梵声如雷震……吾悉知彼願等事 疑云梵声者意如何答論注上

(『大正蔵』巻四〇) 云天竺

11国称浄行為梵行 | 称妙辞 | 為梵言 | 彼国貴重梵天 | 多以梵為讚

12亦言中国法与梵天,通故也故知是称美言也 八音者何等歟答遠

(蔵』巻三七・一〇八頁下) 二六 (『大経義疏』巻下、『大正) 二六

(十丁右 (巻二)

01八種梵音如彼梵摩喻経中説一最妙声其声哀妙 二易了声言辞

03六不女声其雄朗七尊恵声言有威粛為世尊重有恵人声八深遠声 02弁了三調和声大小得中四柔濡声其声柔濡五不誤声言 1无錯失

04 其声 此 ア深遠 猶如雷震 選説多也 文 至彼厳浄国 ·受記成等覚等事 疑 云

05 行偈頌何事歟答上 一句挙神通益下二句挙授記益 ተ切

06奉事億如来… 還到安養国等事 疑云此一行偈頌何事歟答供 14

起行

07之益也遠(紫紫纖 巻下 『天正》)云往彼広供多仏,起行之益 偈約聖人往生 文 已上十三行

08拳諸仏共嘆」也 若人无善本不得聞仏名難以信此法等事 疑 三云善

本

09者何等歟答善本者云善根 也 事也根者本義故又云功徳 事也善者 功

10本者徳之義也 私云善本者戒也戒是万行地盤故々説清浄有戒

12又挙无量本之義 意如何答説此経難聞之由

11者乃護聞正法,文又寂云善本者持戒文

香象梵網疏口云

云拳経難□□□

八十丁左 (巻二))

01修行文 重.... 又経-又(『天経義疏』巻下、『大正) 云初有半偈 云□□□□ · 举无善人不聞此経彰 経 深

02釈云聞仏名 相違如何答此経所詮名号也故釈聞仏名 也委么

如

選択

03 集 |又経云此経者約能詮| 釈云仏名者約所詮 也又次下云此経住百

年 쑠

04故无違 又挙憍慢等悪相有何意歟答此経深妙 悪人不得聞 称美术

也

05故遠(鷹)巻三世・一〇九真正) 云挙有悪人不信此法 | 彰経深重| 文 又憍慢等

々名義如何答

06 橋者自身 奢 也慢者偈 : 故慢対。他身」故文 他人,也故俱舎(巻四、『六正蔵』巻)云憍由・ハルカ 自 身=

07又於慢,有七慢九々,俱舎頌(鷹,譽,元,三八真,五),云七九従三皆通

修 断

文謂先七慢者釈卑

08慢者一 一慢寒我勝他一 ||一過慢於他等| | | 慢 | 思₌ | 也_ 三慢過慢是勝一慢也 頭四阜慢我遙劣。

09 也慢 五 我慢計我々所 一六邪慢濟净有德慢也七増上慢上得慢也九慢依発智論

10大旨同七慢 11口煩悩也 宿世見諸仏…… |故略之^{|云}《弊者六度裏也可知| 踊躍大歓喜等事 懈怠者懶躗義也 疑云見仏之時何不 可 知皆

得度

12歟答雖有見仏之縁 解脱時未至 | 敷此即 種熟脱 三時次第也

01故大通結縁人于今流転 敷 (十一丁右(巻二))

02見生身二聞法名見仏」取意又釈八難 一 正₂ 又見仏分斉如 時* で像末三 何 一時共云遠世-事 答慈恩云見仏有二

03了義灯第一(聲:八〇六頁上) 云值仏者有仏教法 | 従他聴聞亦名値仏 雖

有仏教 无人

05 04伝説名无仏世 偈頌パル 人云謙敬 _ 也 其有得聞彼……真成報仏恩等事 又謙即敬歟答不爾謙与敬也謙下自身恭敬他 疑云已下五行

07文』也第二一行釈自設有大火,至 06経何文, 歟答釈流通分文, 也謂始一行釈自其有得聞至无上功徳之 後生疑或」之文』也第三一行釈

自当

08来之世,至皆可得度之文4也第四一行釈自如来興世 至諸婆羅蜜

之文也

09第五一行釈自遇善知識至无過此難之文也 又満大十火 云何可 通

之脈

10答如此事即容有釈也只是釈悉之分斉, _ 也

11 中夜 十二礼訳者禅那崛多三蔵 也

12第三謹依龍樹菩薩願往生礼讚等事 疑云龍樹者初地菩薩也 何口

(十一丁左 (巻三))

01答自就就他本緣 三義故也曇鸞(『論註』巻下、『大正蔵』) 云恐第七地大寂滅

故文□…□;;1

02乗沈空 故也 求□ 又龍樹菩薩造弥勒十二 一礼爾者知足浄土 何 為所

> 03歟答以浄土為所求 | 也故楞伽経(ᄛᇪ譽]六:བརརིབཁཚས།云妄覚非境界 於

有天国中 有徳

04 比 丘 名龍樹菩薩 |能破有无見|為人|説我乗|々々内証智| 往生安

楽国

05 証得歓喜地文 又依龍樹者何不用十住婆娑論中弥陀偈 歟答十住

論ハ

06因明也十二礼直弁也一巻文也 懺悔同前後等事 疑云初夜等前

後与

07今前後同異如何答異也 又発願等作法六時皆同歟答同 也

08アミタ仙両足尊等事 疑云仙者何等歟答聖義也 奢摩他行 如 象

歩等

09 事 疑云奢摩他者何翻之」歟答此云止也止者静義也

10声如天鼓俱翅羅等事 疑云天鼓者何等歟答天帝鼓也花厳経

云

又

11俱翅羅者何翻之, 歟答此云百舌鳥, 也鶯 也光記(『俱舎論記』卷一、『大)云

舎利翻百舌鳥

12此不審也慈恩釈 (『法華玄賛』巻一、『大正) 二五百舌鳥者 鶖シ 也文 倶

| 翅羅

者涅

槃経文也枯木不栖 _ 也

01 (十二丁右 (巻二))

故文

又取高声辺 敷答爾也 有 云共取六 高声。 弁説。 |同妙声 | 有= 説法 能

十二丁左

04

具也所獲善根者能礼所得故也

所獲善根等事

疑

云所獲之功

04 03 02観音頂 伏外道 帯果っ 横川安楽谷明賢云丹豪阿闍明賢覚超之弟子也ミタ有大威勢故頂載、之降 (戴冠中住等事 . 魔 王, _ 例 如云上宮太子戴 疑云観音頂戴ミタ歟爾者有 四天王,伏守室逆臣,尽天台釈 何 由

05 而 行 因 也大智受之」観音往昔成仏時名正法明如来 故帯シャ 昔月果

07疑 06 行因 云諸魔何故讃ミタ、歟答被降伏、帰故也賢護分見 ☆有云此釈意今戴ミタ |表昔果 也 无量諸魔常讃嘆 魔王讃ミタ

也

08 此= 願り 有 力 権 実 義 権者第六天魔王 也 為諸衆生願力住等事 疑 云

09住之義如何答依因位本願 10当之益 也 為衆説法无名字 等事 住極 楽 | 云也有云鬼神悩身心 疑云法体設雖空 |魔王指現 何无名字

仮相

12 11 大乗論中は 歟答体空故无名字也 法仏浄土 諸法不立名字説法云 又无名字文点如何答如上左点大日房 彼尊仏刹无悪名等 読也 事

02道者離体機嫌也非説悪道等之言也 03衆善无辺者所礼仏所具衆善也能礼行者所得衆善歟答仏所 01疑云設雖无其体,何无悪名字 (巻二)) □敷答此体□離名□嫌也次□女人悪 衆善无辺等事 疑云所口

> 05 向ノ 者誰人所得歟答龍樹菩薩所得 也 又此一 行何无礼之義 | 歟答此^ 廻

08答略懺悔之時五悔同名懺悔 07答要略広三品者従狭至広歟爾者要者五行略者四 06句也十二礼者約多分;也又礼上廻向故也 也弘決(卷七之四、『大正蔵』) 至心懺悔亞願滅 行相)云雖有勧請等 違 如 事 四

09 五悔^文 莫非懺悔故 真言 金剛界元 用五悔 胎蔵界 用ル 九 方便 也 又无始受身之

10如何答迷真始云无始 妄起无端 故云无 也辟分 如 車輪 廻, 始 也有 (『盂蘭盆経疏新記』巻下、『卍)二K

11 始 12恒以空恵照三界等事 | 較然 不覚故四无明 疑云空恵照三界之義如何答対衆生実有 文十纏三纏云事在俱舎等 一 可

(十三丁右 (巻二))

01 見 03者衆生縁計法界緣他无緣成也円成等者名三 02空仮中分量也今一切智也三慈悲中 諸仏以中道恵 照衆生迷倒 云也又一切智道種智一 以空恵 照者大慈悲也 切種智如 悲 次

一性也

05 04歴劫已来懐嫉妬 物歟答嫉妬者慳貪也未曾有経(常 梵焼智慧慈善根等事 - 野三萬下) 云不嫉妬 尋云嫉妬者其形何 余経云不貪

ハカララ経(『元波羅蜜多経』巻五、『大)」

「大八八七頁下)」

「大

06離貪嫉 07 終(譽片『古三萬中)云慳貪嫉妬者堕我鬼道 者見他尊貴 多り 焼丸カナ 宝= 起嫉妬心 굸 《故嫉妬与慳貪 故往生要集餓鬼 文異義同 道

也今即

09 喩』 胎= 08 貪癡嗔三毒也 |也此挙十二因縁||也十二者无明行過去二因也識名色六入独 癡愛入胎獄等事 疑云胎獄者何等歟答在三界獄

10現在五果也愛取有現在三因也生老死未来二果也 願捨胎蔵形等

事

12又上来五悔者為引経論文,為私解釈歟答私云結偈也但十住婆娑論 11疑云胎蔵形者何等歟答次上入胎獄也此段当新訳花厳普賢十願也

弥

〈十三丁左 (巻三)〉

①勒発願経嘶動所、等有五悔文 | 依此等 | 結給也□□□大師ミタ讚終 = -

引用

03但无常偈別也 02之給也 余悉同上法等事 又於此時中,云同上等 疑云余者何等歟答前後発願三礼□ 有何由乎答今略懺悔以五

悔之

05答有本二 04五段,共名懺悔 此即 更加 余処 故也 又或本 无此五字邪正如何

06文永五年八月十六日

善也

07礼讃三巻内第一

(十四丁右(巻三))

01後夜

03 勧之,爾者何為所求 02第四謹依天-親菩薩願往生礼讚偈等事 一敷答極楽也注上釈 疑云天親於都卒極楽,共 願生安楽国之句」(『為監戒』

灣院) 云生者天親

06以論 05至故且与釈也余処云生知足 04菩薩願生彼安楽浄土如来浄花中生故曰願生,有云此釈往生論 明之,通 申三経 也其義明々也 也 又今此頌文依何経歟答論文幽也 又定散 二門中勧何辺 作

本

07論并注意定善也而今随宜転用 為散善 也

08世尊我 一……与仏教相応等事 疑云此一行偈頌何事歟答於五念

門

09中頌礼拝讃嘆 11地礼拝者約身業,故身意既別也而何以帰命,云礼拝門 10又讚嘆門如文,爾也云无导光等,故礼拝門来聞其義,帰命者約意 門 也謂帰命者礼拝門也尽十方等者讃嘆門 |歟答爾也 也

樹菩薩造アミ

12 但以義

,此為礼拝門也故論注上(『竺譚臺灣〇)云何以知帰命是礼拝龍

〈十四丁左 (巻三)〉

01タ如来讃 」或言稽首礼或言我帰命 |或言帰命礼……天親菩薩 既_ 願

往

04 義 03 02生豈容不礼,故知帰命是礼拝 々々必是礼拝 若以此 _ 推_尘 帰命為重 然礼拝但是恭敬 不必帰命 申己心」宜言帰命 論=

汎旨 談礼拝 彼相成 於義 又今略作願門 有何意 | 歟答 解ス 偈ノ 至妙

依

06 別= 立_訓 07先拳本師釈迦也故論注上(『空寶』響四〇)云世尊者諸仏通号也論 05 論意合 安心起行立五念門 其外挙起行故也 又世尊者諸仏通号也爾今約何仏 而今師意作願門者即三心也故安心 | 歟答 智

09世尊 _ 此: 言意帰釈迦如来何以得知下句言 我依修多羅

08

不ルコト

達片

語介

則習気无余

智断具足能利世間

|為世尊重

故

若謂 Ē

此,

則義无

意遍り 決

10 告、 立亦復无嫌 一 云 々 又一心者定散中何歟答散心也此即

定一心也

12 弁z 11非入定一心 〈十五丁右 故此即至誠心也 (巻三) _ 也 又一 心者浅深分斉如何答勇猛強盛心也 又於十二光中,殊拳无导光 有何意歟答雖]業事, 可 + 成

03 02无辺光也此即无辺无导二也 01 疑云此 二光共一体上異名,无导徳最勝故也今文。 行偈頌何事歟答自下於五念門中 観彼世界相 挙 | 挙観察門也於中| 有 二光也謂尽十方者 ·広大无辺際等事

04 報観自観彼世界相 至 一切満足 一十行是也二ミタ観自无量大宝王

06 05 而於 香等供 行上二句名荘厳清浄功徳成就意云清浄 (養三行是也) 一菩薩観自安楽国浄浄至功徳大宝海 者依正 一報共清浄 一行是也

也

07然而先始故約依報也下二句名荘厳量功徳々々意云極楽分量広大

无

09答上二句名荘厳性功徳々々,意云依報荘厳併自ミタ如来因位万行 08辺故也 歟 正道大慈悲 如 鏡 日 月 論等事 疑 会此 行偈 頌 何事

出世 无漏善根之性 出 生云也下二句 名莊厳形相々々々々意云極 楽荘

厳

10

11形相有光明 如 日 月輪 云也 備 諸珍宝性 明 浄 罐 世 間 等事 疑

云此

12行偈頌何事 | 歟答上二句名荘厳種々事々々々々意云以泥土木右口

(十五丁左 (巻三))

01 莊厳 |以七珍宝|荘厳種々事 |而自然=>シテ 光明□照曜□色殊妙云也

02宝花千万種……

宣吐妙法音等事

疑

云已下三行偈頌何事

·默答此

03行名荘厳三種々々々々謂始一行名荘厳水々々々々水荘厳故次

R

05故已上可

梵声

[悟遠:

法

王善住持等事

疑

云此

行

阁

頌 何

04名荘厳地 厳 知』 、々々々 地莊厳; 散被後を 行名莊厳虚空々々々々 空裏 荘

06答上二句名荘厳妙声々々々々、意云国名 極楽、人聞之、可発 派楽

之心 故也

07論注上(『メニルパルサロ゚) | 云声者名也名謂安楽土名 経言若人但聞安楽浄

土之名

08 願レ 往生 |亦得」如」願此名悟物||之証也˙義寂大経疏||云ミタ十二

光名也

09次下云正覚アミタ」故云々下二句名荘厳主々々々々/意云ミタ如来 為極楽教

偈頌何

10主,住持国土故也

如□浄花衆……禅三昧為食等事

疑云此一行

11事歟答上二句名荘厳眷属々々々々,意云生彼土,者並自蓮花 化

12生故也注下(譬問: 『於正職』)云如来正覚浄花之所化生云 又浄花衆

者意如何答自浄

〈十七丁右 (巻三)〉

01花生人故従所生;云浄花衆也 又以花 -名_ル 浄ロ 事如何答ミタ如来浄

02所感花故 又正覚花者意如何答依如来正覚之功 此花出生故也下

我命

永

03 句ョ [^]名荘厳受用□□□々,意云極楽衆生不 用段食 一法味為 食 住訓

无此三過 故名口

04 劫 故 也 永雖身心悩……一 切能満足等事

答始二

05句名荘厳无諸難々々々々,意云極楽衆生於身心 離苦得楽故也次

四 句,

06名荘厳大義門々々々々 | 意云大義門者云大乗 _ 也 又極楽有声 聞

何云大乗

07界,歟答従本立名也故論注上(『ホト亜蔵』を四○:」)云以理 |推之|安楽浄

土 不応有二乗,何以

09 08言 之 | 夫有病則有 薬 | 理数之常也法花経云言釈迦牟尼如来以出 五獨」故分一,為三浄土既非五濁,无三乗 明 矣……阿羅漢既未得

一切解脱

10必応有生,此人更不生三界々々外、除浄土,更无生所 是知唯応於

浄土/ 生-

11如言声聞者是他方声聞来生仍本名故称 為声 聞文 又等无譏嫌名

者意

12如何答等者注上(『論註』、『大耳蔵』)云皆是大乗一味平等,文同注(windth) 法证明的

顾()下口等者平口一 相故文 機嫌名

(十七丁左 (巻三))

01注下(臺灣〇一八三八頁中) 云体有三種 者二乗人二者女人三者諸口 |不具

02体譏嫌名亦三種非但无三体 ,乃至不聞二乗女人諸根不具三種名

疑云此二行偈頌事

歟

疏意

03 但 故 名離名譏 嫌 歟 又名者在体 Ŀ= 既云无体 何さ 云无名 一歟答爾 也 02 界 | 无有間 断 故

04净土雖无二乗等三 問 日名以召事: 有。 事 体 約三 穢土 云名譏嫌 也故注上(ﷺ ・八三一頁上) 二

05 乃_チ 7有名 i |安楽国||既无二乗女人根欠||之事亦何須復言| 无, 此三名

耶

06 答 譏シ \Box 如 軟 心菩薩 不业 甚。 勇猛 譏シ 言, 吉 聞、 如 人諂 曲ナリ 或, 復 ョ瘴ャウ が弱けがま

07 言ヵ 无,名 □女人..... 有デ 如 是等 根 雖 具 足, 一而 有, 譏嫌之名 是故 ·須ヶ言 乃 至

08 明浄土 无 ニヘ シトイヘリ 如 是等与奪之名」文後二句名荘厳 切所求満 足 K

09 極楽衆生於一 一切所求力 事_ 一
无
ポ
コ
に 満足 故

々々々

意云

10 句、名 无量大宝王……色像超群生等事 疑云此 行偈頌何事歟答上二

11荘厳座々々々を意云ミタ如 第来所座: 也]如観経 第七観 _ 也]義寂大経**

12大宝王者仏也仏宝□故云大宝王下二句名荘厳身業々々々々 意云

01 釈仏常光一尋 _ 也 又於諸仏 常光 一尋別縁光遍照也於ミタ照

(十八丁右 (巻三))

方

公无辺 : 一云不断 而今云 尋 相 違 如 何答私云今一

尋者雖

03例諸仏以義分 _ 且, 一釈常光分 也実元 不可 有分限 _或約½ 応仏 _ 釈ル 尋、

04説卅二相等故 下一八三二) 云案 此別 又一 尋者其分量如何答此有異説 注上

訓, 六尺曰尋i観无量i 寿経 言 彼ノ 公円光如 百 億ヶ 三千大于 世 界 訳

者

05

07 06 以尋 為。尋, · 若訳者或? `.而言何労 其ルクラ 取デ此ノ 類ヵ 用デ 准 ア 3 `タ如: 縦長短咸謂 来舒臂 -為 言ョ 横-舒业 両ック _ 故= 手, 称 尋

者円

08光亦応径 六十…… 由 旬ル _ 云 々 此釈意於ミタ光明説 分限が 円 光

也

而ョ

言一尋ざ

09円光也釈歟 天人不動衆…… 勝妙无過者等事 疑云此 行 福頌

何事 歟

10答上二句 名荘厳大衆々々々々一意云極楽菩薩不還一 一乗地 云 事= 清

12辟死骸

也

此

2.対菩薩

一意也下二句名荘厳上首々々々々意云如

須

弥 乗ョ

11如穢土海中不留

死骸

極楽浄土无二乗死骸

一云事也今死骸者二

浄等者

+

(十八丁左 (巻三))

239

 $01^{\widehat{18}}$ 切山中」ミタ如来於大衆中」仏是上首也云事也

02義寂大経疏意云今上首者観音勢至大経説有 二菩薩

03最尊第 一等一故 天人丈夫衆……妙香等供養等事 疑云此 行偈

頌何事 | 歟答上二句名荘厳主々々々々| 意

04 供養ル 云於正報中 為主 二所" 恭敬供養;云也下二句極楽菩薩往詣 他方

05諸仏 文也 |而今一向付ミタ|致讃嘆|故以彼供養文| |随宜転用 属資

弥

06 □ 仏= 釈也已上三行付仏 釈也 安楽国清浄…… 利益諸群生等事

云

07 此 行偈頌何 事 | 歟答上二句於菩薩四種荘厳功 徳成就= | 頌第一功

徳

_ 也

09 08无垢輪者大菩薩説法也或仏説法也无垢者清浄義也下二句頌菩薩 四種功徳中第二 功 徳 也菩薩利益 衆生 二十方同: .時周遍故云一念

亦云 時 _ 彻

10 讃仏諸功徳…… 功徳大宝海等事 疑云此一 行 · 偈頌何事歟答上二

句頌菩薩

11 四種功徳中第三功徳 _ 也 又本論(『論註』卷上、『大正蔵』)|云讚諸仏等今(『浄井

『天正蔵』巻二六) 云讃仏 相違如何答論

12約諸仏」今約ミタ 故云讚仏 _ 也 又无有分別心者意如何答已上无

功

(十九丁右(巻三))

02心 也注上(『論註』、『天正蔵』悉)云一切菩薩声聞 01用菩薩証 寂滅平等理 故於善悪諸法 元彼此差別心故云无有分別 .嘆, 穢土如来大慈謙

忍不見仏土有二雑穢

03 相 雖嘆;;浄土如来无量荘厳 不見仏土有 清浄相

何以

放以

諸法

04故諸如来等之是故諸仏如来名為等覚,若於仏土 一起優劣心 仮。 使供

05 養_上 如来, 非 ·法供養 · 也文已上二行付菩薩

07 琮/ 中_元 06 晨朝 何歟答隋彦琮也大宋高僧伝其義顕明也鈔批(常智等地上巻五、『記義書) 第五謹依彦琮法師等事 疑云此師者隋唐両彦

08彦琮唐彦琮二人見 大智云隋彦琮来唐代 一翻訳云 此悞歟

09芝園集文也 当旦起 時礼等事 疑云旦起之文点如何答如上 有

夜*/* 未

10 暁 時云平旦 |夜既暁 時 三云早旦 也 法蔵因弥遠等事 疑云文点

如何

11答如上意云釈成道十 劫, 由 也有 云深遠者讚 嘎嘆義也…… 濁世、 難

還り

12 事

入口

疑云難者何等歟答八難 也 浄土願逾 深等事 疑 云誰 [人願

(十九丁左 (巻三)

01 含韻: 02 09□常此応身也] 80 07指六十万億等身量 云現小歟答爾也 06 05 03疑云十念者為時節分斉,為念仏行相,敷答念仏也去行也 01答行者願也 ○二十丁右 12光含法界団至定非 11印文也非印相: 10凡夫有相機也 04已成窮理聖亞等事 02句其意如何答述作者本意 无縁者約仏智= 内証不変,外用随宜云暫 上句所証理也今句能証智也 何 正 自受用身也 摂諸衆生 故也意同也 (巻三) 是也 有 真有遍空威等事 一不断常此報身也三凝然常此法身也機分斉者 云ミタ願也 也 有 宝手印恒分デサヤカナリ 日相者約機 難等事 疑云窮理者自証化他中一何徳歟答自証 又文点如何答如上其印文分明也云也 又无縁者意如何答觀経(『於正職』巻 也三常中気 也如 疑云或本 小口 何当蒙授手 在西時現小但是暫随機等事 也 此 等事 疑云為内証 |句云自言之詞| 花随本心変等事 不断常也三 云門 又暫并機分斉如何答約 疑云手印者何等歟答仏 遂往生 何為正 為外用 一常者一 心等事 也 | 歟答団-三) 云以无縁慈 | 歟答内証也 相 疑云文意如 唯 須十念心 本可 疑 疑 云此 云 為 御 06 05 04意也既開蓮者至花開期,依大悲菩薩開花三昧 03 02等歟答云八方風 01又指十劫已来云古今, 歟答爾也 12 事 11 10 09疑云先者意如何答口云先成道次国土建立次衆生摄引云也故 08聖衆乗宮殿 07 06 05 04尋云文点并意如何答如上花開後身安宮殿 03答随行者娑婆本心行浅深 (二十丁左 (巻三)) 3界引群萌 口何 所坐 等 || 无邪聚| 止吉歟 等事 例如鳥卵 疑云天香者何等歟答空厳也遠風者風 随意既開蓮等事 有 正自往人希等事 云 | 歟答能 疑云无衰者指凝然常 云也有云非有縁地 宝殿逐步 欲出 也 坐也 也今宮殿随聖衆身飛云也 時母破之一云 勇得早无邪等事 必身飛等事 也諸師皆爾也誾師云風八徳也如 疑云意如何答以自身 又像者訓読如何答如 疑云為娑婆修業意為往生後益意,歟答生後 歟答不爾 有花開 者邪也云也 尋云与上宮移身自安有何 坐花非 音楽八風宣口事 疑云邪者何等歟答注 ||不開 不 用 遅速 上有! ·断口口口今者十 不可生云也有云本云止自 力, 像等事 十劫道先成等事 健乳 云也 净国无衰変一立古今然 云形義也 云也 欲~ 性 也 開 疑云坐花者能 天香入遠風 宮 疑 | 即開 莂 移业 ~ 云八 正定 劫已来也 -敷答上^ 云也 身 風 聚 云厳 等事 者 自っ 坐 何 安

08如何答静慮相応故无灾;云也例如第四静慮无灾也07无灾由処静等事。疑云灾者何等歟答刀疾飢三灾也 又処静之義

の来斯幾劫強 等事 疑云強者訓読如何答宗密円覚経疏(宍漕鬱) 巻9来斯幾劫強 等事 疑云強者訓読如何答宗密円覚経疏(宍漕鬱) 巻

即於 () 云強者進

城 11又即進之義 云 光舒救毘舎等事 疑云毘舎者何事歟答毘舎離11又即進之義 云 光舒救毘舎等事 疑云毘舎者何事歟答毘舎離10釈 又中同小時聖人実範執字事 勤読也東宮切韻 云強勧也云

12現月蓋長者門關 給云也此請観音経時也 人去宝衣齎等事

〈二十一丁右 (巻三)〉

01疑云人去者去字点如何答十誦律釈去者来,也 六時 聞鳥 合 四

寸

云赤

02践花低等事 疑云聞鳥合之義如何答六時以鳥鳴,分別之,云也有

03蓮開 昼青蓮開夜云事也悲花経意歟天上 以花開合分別昼

利

04

夜也俱舎論意也

又四寸者有何由

|歟答人挙足

高四寸也有云切

06如何答極楽所有一切物无不正二云也 鳥だま 光転等事 疑云此のフタラク霊鷲山等践 入 四寸見 相看无不正等事 疑云文意

句文

者

07点如何答如付 但忧**5

08可疾成仏果 云也 珠色仍為水等事 疑云依何経釈此義 | 歟答観経 /

宝

10到時花自散等事 疑云到時者意如何答到六時々分,云也09地観文也 金光即是台等事 疑云金光作台歟答爾也

随願花

還開等事

12直心能向彼有善併須廻等事 疑云直心者三心中 何心歟答至誠心11疑云意如何答為供養;分用時花両亦開之故云花還開也

也誠

01心為名利,不曲,故云直心,也今拳初一,摂後口,也 旦莫論余願等〈二十一丁左(巻三)〉

事

02疑云旦者意如何答指一期,云旦,也有云旦者云先,事也 又余者如

何答都

03卒十方 願也 風長是処請等事 疑云訓読如何答如上 口宣猶在

定至乃

05定徳也浄名経(潭: 緊聽達)云不起滅定現諸威儀,不断煩悩,而入涅04発幾花聚等事 疑云口宣猶在定意如何答深位大士得首楞厳

槃 文此意也 又聞名

06者聞観音名歟答爾也大乗荘厳法王経(灣)、雲寶寶灣)云若人恒念大士

名当得往

07生極楽界,面 見如来无量寿,聴聞正法,悟无生文 又花聚者何

等歟

08答来迎蓮台也西方便有一蓮生(ﷺ,養四寸·四八〇頁下三)意也 侍座一金蓮

等事 疑云侍座

12 10 09 11 3者能所中 何意歟答讚勢至徳次 楽 会是戒香全等事 _ 也 又此時礼中別》 何歟答所座也有 疑云勢至徳中挙鳥類天類戒香等事 讃極楽事 讃ル 云能坐也而座者惧也 一菩薩 一也例如法事讚観音讚次 有何意 一答引他釈っ 得群非 故也智昇 右 讃が極 実鳥至 法 師

〈二十二丁右(巻三)〉

03者今師意定散差別如何答已下三観自本,定観故得定名,下三輩02日中 第六沙門善導至謹依十六観等事 疑云既云十六観爾011入蔵録集諸経礼讚儀 今彦琮法師礼法皆戴 下巻全如今也

05等観及下九品人,起行五七日一日十声五声等命欲終時仏言願見

勢至普雑

仏

06者至心口称念、至来現行人見仏、亦見聖衆等至故名見仏三昧増上

縁₋云

07故也例 08 雖 无修 肾之功 如 -壊劫時衆生悪業障重/ 皆得定心+生第四禅 者業力引置 也 私 ||他力身中| 云此義不爾 云 在別 可 善業者

見

| 09尋云大小乗正相云...入定時不命終...爾者今何故住三昧...云往生

歟

答

11有云大乗実説入禅,時分命終也故天台大師臨終云坐禅而化,也永10爾也死士唯捨受云故但経 云 歓喜等,俱経論説也其義難知,

12観云命終在楽受,如恵玉比丘云 懷感(震震 養聞 共五 [天正] 云経歓喜者

受也約将命

〈二十二丁左 (巻三)〉

01終時分,説捨受者正命終時也意此義善也又得求歡,義 但今師意

の指広懺悔」也 観彼ミタ極楽界等事 疑云此一段者十六観中 何の楽受時分命終 得給歟 懺悔同前後等事 疑云後者指何等歟答

観』

06以ミタ因位本願,面説之,観経,以行者修因行相,面説之,アミタの以ミタ因位本願,面説之,観経,歟爾者意如何答浄土三部経中,大経の釈也 又卌八願者指双巻経,歟爾者意如何答浄土三部経中,大経の4意如何答依大経意,総標也意云今観経説相本願所成上行相也

音

経_元 以

08極楽界一句総『観経』已下七句依大経意』標之」也の諸仏証誠。面説之。而今大経本願所成様先挙也故初観彼ミ

此下荘厳七宝幢秀三昧无為即涅槃等事(疑云此三段釈経何文,歟

答第

09

10二水観三種荘厳也 又八種清風者何等歟答法聡記(編纂記,『記録録]

云風八徳也

11大智(『鳳羅義疏』巻中、『太正) 云八方風也 又機音者何等歟答有機者器義

也故楽器各随其

12形出各々音云也有云観音以衆生三業,為機,口説悲花経衆生口為

〈二十三丁右 (巻三)〉

乗機菩薩機仏機至 03天台普門品疏(藍華冷」と呼ばい)云玄義音者機也機亦多人天機二02世意嘉祥云観世口観世尊意,故今機云機音,也機者聖衆根機也の機,時名観世音,云 又余経身為機,時名観世身,意為機,時名観

04一口機応二意機応三身機応^文機音者機即音也此持業釈也

05又機音正受者為娑婆機音,為浄土機音,歟答娑婆機也今観成相故

t

07非今義也 又三昧无為即涅槃義如何答成正受位, 无所作, 云无為,

也

08受定楽,安楽故云涅槃,也涅槃 亦翻常楽,也章安釈(霊鑾巻湯,巻片,ま)

云涅槃有大中小」所謂

09魚注水,鳥遊林,皆涅槃也。宝国宝林諸宝樹至塵沙仏刹現无辺等

事

10疑云此二段釈経何文,歟答第四宝樹観文也 又経云樹高八千由旬

| 歟而何只云卅万 | 歟答爾也今偈頌故従満数 | 也一由旬卌里也 〈二·

11

万里

12又説无生者不見今経文,如何答大経意也又口経 有口義,也 又色

千

〈二十三丁左 (巻三)〉

の1般 者訓読如何答如上般若字己无読;也又口云両般;此云両方;意います。

02尋云経只説諸天童子等;今讚云化天童子等;相違如何答爾也釈家

得,

也

04大小童子形也謂小二三歳大謂十五六等也二云為令人生愛示,增欣03意,釈化天童子給也付此化義,有三料簡一云示内証智恵浅深,顕

小

09土人可有童子形,歟故般舟讚(『片盂膚』 費四十) 云化天童子无窮数悉是念

仏往生人

10化者是化生義歟又当麻曼荼羅下輩生

織童子形也

〈二十四丁右(巻三)〉 12答第五宝池観文也 又宝羅宝網者其差別如何答羅者小羅也取鳥11宝池宝岸宝金沙亞努力翻迷還本家等事 疑云此一段釈経何文, 敷

02網可収於龍不可取之,文此讚孔子,言也 又可云覩波聞楽何云聞02網也網者大網也取魚,也外典云翔天,鳥以小羅,可取遊渕,魚以大

04又還本家者意 如何答娑婆必可捈 |処 浄土必可欣 |処 故云還本家の楽歟答余 |目 | 故見耳 |余耳 |故聞目 |云事也意如波枕石口 漱 | 云

云 05也有云還理性,義也 一々金縄界道上至歎説三尊无有極等事 疑心又還本家者意 如何答婆婆必可扮,处 羚土必可形,处 赵云遗本家

06 此,

段釈経何文」歟答第六宝楼観也

又他方菩薩亞恭敬立者経不

見

恭敬 遶 (『☆エンドルード) 云諸菩薩衆往詣 无量寿仏所恭敬供養五7如何答大経下(『☆エンドルード) 云諸菩薩衆往詣 无量寿仏所恭敬供養五

故

有云 8三匝 稽首 无上尊;等业是也 又三尊者何等歟答ミタ観音勢至也

09三宝也 ミタ本願花王座nx終時快楽如三昧等事 疑云此段釈経

10文、歟 疑云一段釈経何文、歟答第七花座観文也 又花座観中何

何

12独坐已下三句釈第九観意;也付寸ミタ独坐□□六十万億等;也真11正報;歟答観花座;本意為観正報;也第七第八両観文分明也故ミタ

一〈二十四丁左(巻三)〉

形

0403先指第七観往立空中仏,也経文彼仏者指空中仏,也 02等者釈修行相貌 01 即摂取歟答別 光明等者釈光明遍照等 也 也終時快楽等者釈得益相 私云同也般舟讚(『於正薦』巻四七)云不為余縁 也蒙光独等者釈摂取不捨 |歟又云ミタ独坐等者 也 又光触者 昼夜六時 ー 光』 普ァ 照

05往生人,故云。 又心不退分斉如何答昼夜六時専想念也 尋云釈

唯覓念仏

08心不退, 仏力冥加故二定善散善異謂約, 定心徳, 云心不退, 悟无生, 07一凡夫光触異謂約凡夫過, 云造罪, 退失, 凡夫退位故約光触徳, 云6当体, 之処既云自造罪退失, 今云心不退, 相違如何答付之, 有三解,

摄10行;云造罪失;余行无摂取不捨益;故約;念仏;云心不退;観称共有10行;云造罪失;余行无摂取不捨益;故約;念仏;云心不退;観称共有09約散心失;云造罪退失;未得无生;故三諸行念仏異謂約上六品余

也 11取不捨益,故有云仏第三義可為正歟云《有云第二義勝也悟无生,故

12又摂取益尤在定善;而釈家亘称礼;也故約定善尤有道理也

○二十五丁右

(巻三))

02定善異者无其道理,其故既云蒙触者心不退,約光触,云不退,01有人難凡夫光触異者一分有其謂,念仏諸行異者尤有道理,散善

03釈文分明也全不釈約心定散

一此過分料簡也如何答此難勢

往

爾

也

04 但子 誦 : 、其文許不知其理」也大経等三部中何文 有称名者云摂取、

之

10 09散異者可叶経釈意,也又今三心者先付九品散善行人,説之,又及自 08故知蒙光触者心不退者先約定々心者也再往必可亘称礼,故知定 07釈家得意 06条尤勿論也而又蒙光触者心不退者讚 花座観之処雖経文 不見 05文』哉観経既十三観中第九観説念仏衆生摂取不捨 造罪退失也者約散心行人,釈之,也定散異旁有文証 一釈ミタ独坐顕真形々々光明遍法界蒙光触者心不退也 此即約定心之 有道理 -哉 有

何

11過失 経何文 敷 3 タ身心遍法界至風鈴楽響与文同等事 疑云此 段釈

12 歟答第八金像観文也 又経云諸仏今云ミタ相違如何答自総 移心

別 _ 也

〈二十五丁左

(巻三)

01経文明也 又依心起想表真容釈経何文,歟答是故汝等心想仏釈依

心

02起想,

卅

一相等釈表真容

_ 也

又真容与宝像

| 歟答爾也真容者第

九

04持三宝:(『六正職』巻四七三)云但想尊容:当見真仏 03観也宝像者第八観也有云真者真身容者形像也西方要決釈住 文但今釈真容之宝

三三歟

05 ミタ身色如金山至十地願行自然彰等事 疑 云此 段釈経何文歟

通称礼

此

.意也是以般舟讚(डिस्डिड्डिड)云或想或観除罪障皆是ミタ

答第九

06真身観也 又唯有念仏者唯有多義 一今依何辺 | 歟答花厳有十重 嶉

法

08 筒去美 07相有五重唯雖然,今不可必配当彼唯 法 持取一 法 義也懷感等釈唯之義 | 只是簡持義也謂付有| 意爾也 尋云今念仏 二法 事_

者観

12分明者哉 11 10 09称中何歟答付真身観念仏衆生文有三解,一々向称名念仏也二一 可見 向観察念仏也三広亘三業念仏,今云観念々仏也委在定善義抄 又蒙光摂者為本願故 為念仏故歟答念仏故也念仏

(二十六丁右 (巻三)

03増上縁也 02釈三縁中増上縁也又念仏蒙光摂者釈親縁也又至西方者正釈 01必行者三業親近仏」故為本願 尋云余処釈得生益,云入三賢,今云十地願行 _ 也 又強者意如何答強縁云事此 意如 何答 即

督

04約始一十地 心約終 也 私云ミタ身色如金山相好光明照十方原地唯有

08 07以観念利益通称名,以名号証誠 05念 蒙光摂 観念 当知指唯有本願然彼如来最願力故也最為強必得成就也 0十方如来舒舌証諸仏証誠,也專称不乱,也名-另名号,也至西方即得往生也6十方如来舒舌証指小経恒沙專称指小経一心名-另指小経執持至西方指小経 通観念 | 釈也処々以観念利益文

本願力十

09方如来舒舌証定判九品得還帰 此証誠亘定散釈意也

10観音菩薩大慈悲至普摂有縁帰本国等事 疑云音捨菩提義出何経

論

11答涅槃経千手経等説過去名正宝明如来 |也又悲花経(巻三 ・一八六頁上)

12普光功徳山王如来 取意 又六時観察者有何証歟答大論(『天智度論』巻二云:

説未来成仏可名

聖()云仏以仏眼

〈二十六丁左 (巻三)〉

01 日一夜各三時観 切衆生誰! 可度者,无令失時文 ·要集中引之

02者何等歟答観音三業也輪者破衆生惑業 故也輪者摧破義也

03勢至菩薩難思議至永絶胞胎証六通等事 疑云転蓬者何等歟答車

04異名也天台玄義(鷹雄英雄,巻世下『天津)云蜘蛛引羅糸,是学結網,蓬飛廻

庭= 依之造

05 車= 神皇帝浮 葉 _ 見_デ 造 船 奚ヶ 一仲見転り 飛蓬ノ 造車 故云転蓬也文

07所定謂之飛蓬也文 06 処准分 南子聖人観転蓬 又胞胎者何等歟答三界獄也喩之胞胎 一而為車 ·也文管子曰无儀法 註或飛揺而无 _ 也

08 正坐跏趺入三昧至円光化仏等前真等事 疑云此 一段釈経何文歟

09 普雑 一観合釈ル 也 又想心与乗念其差別如何答想心者能乗也

証 也

09

云也

又一

切往生之人皆即証法性身歟答爾也雖

小小

有漏が

依身√ 大身√ 大

経 (『観経』、『大正蔵』) 11

10生於西方等,故乗念者所乗也始也経(臺灣:『大三四四郎)云当起自心等依主釈也 故

也 爾者又重観

11義如何答不堪上真身観 者為之」説雑観 」 故 対 氵 真身云重也

大小身事

12又合普雜二観有何意歟答如次 依正想結観也而亦義勢少故也

○二十七丁右 (巻三))

上輩上行至无為法性身等事 疑云断貪嗔之義如何答且制止 現行

貪

01

又

02 等_ヲ _ 而 = 云断 也 又五門者何等歟答上々三 種ノ 業上, 中, -解第 義、 上が

発

03无上道心 云五門 也 又三因者何等歟答三心也 又相続者五門

具足

06等之身,今説或現大身等,歟故不戴之,経(鬢髪: 『芸座蔵!) 云アミタ仏 05身何不戴之 | 歟答ミタ身量極无辺者第九真身観也指彼六十万億 04相続歟答不爾機法共各別故也相続者无間長時義也 尋云或現大

08出六塵之義如何答色声等六境染 能縁之心

07用者或現大身等者摂他受用身也 | 此可論義

具如雑想観

又 之

也離水 料簡 神通如意者指自受

故出六塵 故名六塵

漏户色

10 蘊 故 也 中輩中行至小証真等事 疑云為説西方快楽因者説中下

11 者 數爾者為上孝養父母為下説国土楽事敷答孝養父母也

12私云不爾,快楽者国土楽事也因者ミタ願因也故般舟讃(『トロエエロロト サート)

云為説極楽

二十七丁左

01ミタ願也 又直到者意如何答称美之言也小戒世善往生故 私云

不

02 爾 _ 准_毫 穢 土= |浄土 |声聞置仏辺||意也 下輩下行至発菩提因等事

疑云

03 十悪 経-即 貪嗔歟答不爾十 -悪所 作力 貪嗔、 能作力 業与煩 悩 也 又 就_产 今

04无謗法往生之文,如何答大経意釈抑止門, |故謗法可生 -釈ル 也 又謗

_ 具_

受一劫重苦;

06誹謗正法人堕アヒ大地獄中 此劫若尽 復転 至他方アヒ地獄 中

如

07 是 _ 展転_シຼ 逕っ 百千アヒ大地獄仏不記得出時節 以誹謗正法罪極重

故力

08又正法者即是仏法 此愚癡人既生誹謗 |安有願生仏土||之理 上仮使

10

10 09 但貪シテ 理』 問 彼土安楽 Ï 何等相是誹謗正法 |而願生||者亦如求非水||之氷||望#无烟之火_|豈有得 |答曰若言||无仏无仏法||无菩薩 . 无菩薩/

法 如 是

11等見若心自解若従他」 12彼仏名者三品中 |受其心決定皆名誹謗| 文 又急勧専称 故 云 私

云

(二十八丁右 (巻三))

02 01不爾一下中散観也 尋云一念者為起行為時節念歟答共在散善抄 西方極楽至不去待何時等事

事

但

三云時尅

義吉也

疑云此一段釈何

03歟答付往生之後得益釈也初一段約修因 |総標也中間約正去行之

04 相= |頌也今約得益|総結歟 止観(『摩訶止観』巻九下、『大正)云定心湛然 又会一枝者何等歟答如初禅有五 枝

05禅有=四枝等=猶有枝浅位也会一枝|者深位也此禅定最極也

06有云分々可有枝 |也初禅五支紀二禅四支奏|心三禅五支行籍念惠楽

四禅四支行擔念擔旧訳云枝訳云支,也俱舎第廿八頌(『大區鷹巻三元)云静

慮初五支尋

07

09 捨念中受定 08 何喜楽定 第二有四支,内浄喜楽定 は 又心水沐身頂者意如何答受識灌頂之義也謂以前仏五瓶智水与 《答修得》 証性徳法身理 捨念恵楽定 仏也何仏不可分別 第四有四

248

12太子讓 11 ミタ无漏智水灌 位 以四海水 法雲地菩薩 _ 灌* 頂= -譲ル 国 頂= | 云也此借用ル 也 是表譲四海 世 間之行· 也 也 謂 又与衣被 転輪王

(二十八丁左 (巻三)

01者意如何答モテナス儀式也 也 何答離 迷倒所作 又遊法界者意如 安楽故云无 何答遊-ナ為シュ 歴ル 又或本. 十方

02又号无為者意如

"歟

加

義

03 句何為正 此、 | 歟答无本善也初二句総標故也| 句者ミタ願力能 游成 歟

04 上 一人言也 観 高勢至至大海衆等事 疑云今合 二菩薩礼之 有 何

由

歟

06 05答経既於相好」説相従 上二品懺悔発願等 同 前等事 故也有云上委故今略ル 疑云発願等者指 歟 ;何等歟答礼 諸

07等已下也等者向 内等也 須要中要取初等事 疑 云一云有単 一要単

徳

11 10 09 08懺悔歟答今釈意不可有 勧等事 懺悔ҳ 有 云有 也 一意歟謂 芸 疑云要略二、云不実者,歟答不爾 既発至誠懺悔心者必不倦 云広者懺悔手本也故用要略 也総不可有 歟 好広故也已起懺悔心者 ·略] 時意地以 其広者就実心願生者而 以広意 奪釈し 可 可

> 12 二 也 无, 或 対四 . 衆或対十方仏等 事 疑云望 何文 云或対等 | 歟答必=

〈二十九丁右 (巻三)〉

01 指四人 所対 置或之言 常常 習也 私云不爾或重々 故 又四衆者何 等 歟

02已上和合僧 道 云四 衆 | 歟有 云 対衆懺滅破戒罪 取相懺滅懺 悪業

03三无生懺滅煩悩道 -也 対_{ルラハ} 四人已上,云大衆懺 |対 二三人||云衆法

04 懺、 懺⊦ 亦云少衆 1也対 一人1云但 一対懺亦一

05又向十方尽虚空三宝等事 云対衆懺也 疑云上既対十方仏 一 身 懺ョ 云独自 |何重云又向十 也

方

敷答上^

功

80 07久種解脱分善根至不惜身命等事 06 為致力 小乗 五停心大乗 懺悔 -挙ル 所 対境 十信也俱舎十八(『赤玉蔵』巻) 云若聞説 也今挙造罪 所 疑云解脱分善根者分斉如何答 · 緑 境 抇 生死有過

涅槃有徳

09 竪₂ 12何无懺 11 10 也人者諸仏衆生也即懺悔境也 髄ノ _ 不 顧 : |流涙当知殖解脱分善 海心 等也 |歟答爾也只是无釈也 縦使日夜至若不作者等事 取意 又敬法重人者意如何答法者教法 又不惜身命者分斉如何答摧 又設雖不如 疑云十! 法懺 二時急走和 悔 何无 随 者 分

249

具此

(二十九丁左 (巻三))

03極也大也達也故四分律文云此是至誠懺悔庭 02斉如何答不惜身命等也答不惜身命等也此至誠心也玉云至者 01 益 | 歟答爾也 但能真心徹到者即与上同等事 又云此真実懺悔 疑云真心徹到之分

04

庭+

又上三品懺悔至誠心懺悔歟然今云至誠心者上勝此一心懺悔

09筆功久近 08書文字点画 一 07解脱分之善根人,故知内心雖等,約久近差別 06而何云同心分斉,約外相 05答同"心分斉」約外相」分別也 _ 也 又此懺悔義依何経論 分別歟答上釈既云此三品雖有差別 尋云外相有流血等別 ,歟答依大乗方広懺悔滅罪 有外相不同 依心浅深 也例如 久種 歟 経

決

10定毘尼経等説 12生者□所挙,所対所縁中 11 広懺悔 敬白十方至現前大衆等々事 歟 又依律蔵|菩薩善生経云方等タラニ経 何歟答所縁也有云共也 疑云今諸仏及衆 也

(三十丁右 (巻三))

04 03 02爾者何不挙意三,歟答意三煩悩道也此以无生懺悔" 01 无始已来至两舌闘乱破壊等事 有相懺 【悔故只挙業道許 』也 々戒相如何答五戒者一不殺生二不与取三不欲邪行四不虚 或 破五戒至威儀戒等々事 疑云今所懺罪状挙十悪業 可 滅っ 尋云今 也故今 歟

誑

06座厳麗床座第七 05 語五飲酒也八戒者五戒上加不塗飾香鬘歌舞視聴第六下眠座高 不非時食第八也已上 |十戒者前五戒上亦加不塗飾香

07第六不歌舞視聴第七不眠座高座厳麗床座第八不非時食第九不畜金銀等

宝蔵第十

09戒者出家大比丘戒也此具持 08户上出家十善戒者仏出世已前輪王等制戒世善也今仏是制也二 故名具足戒一也已上六皆小乗戒也三 一百五十

聚

10 11網瓔珞所説重禁戒也菩薩発 戒者一 摂律儀戒二摂善法戒三饒益有情戒也^{爨路}十无尽戒者梵 菩提心 |期尽未来際|故心无尽 戒亦

无

12尽也此非小乗尽形寿 | 意也一切戒者四十八軽等也已上三皆大乗戒

也

〈三十丁左 (巻三)〉

01威儀戒者小乗 三千威儀大乗 八万納行也等者向内等也

02亦如十方大地无辺至亦復无辺等事 疑云自 一切三宝至 自作教

他見

03 作随喜与今 | 有何別 |敷答上挙所造罪縁 一今挙辟顕能造過失多小

也

04又今重々所挙 大地无辺等者法喻何合之,歟答大地已下辟也虚空

250

06 等 05 法也 |謂虚空者広挙三宝及衆生所住処也上云 又向十方尽虚空 也衆生心広大

07 衆多罪 是其義也 又趣* 向无上菩提 也玄義分(『六正蔵』巻三十) 云真如広大五法性

无辺等

故

09縁心作无量罪云也法界者亦三宝及衆生所住処也上虚空者総挙 08私云法性者真如法性也意云法性 能 理成无辺諸法故所縁境広多

10広大之辺,今法界者別挙各々住処,也衆生三宝戒品。

批

11 上至諸菩薩亞罪之多小等事 疑云罪数多少上既約能所= /_二二重=

12 何重又云罪之多少 | 歟答爾也 狟 |上別々挙之||今総結罪 数 今於三

之

宝

(三十一丁右 (巻三)

01前至帰命アミタ仏等事 疑云自此已下文相起尽如何答自今於三

宝前 _ 至,

03 02不敢覆蔵 者対シ 境 -発z 敬上之境 者向作罪境界 清ル 加被 也 顕懺心分斉 l 自始従今日 _ 也 | 至アミタ仏国者対慈下之 自唯 <u>原願十方</u> 至憶我清浄

04 慈願 也 自乃至成仏至更不敢作 者総 結上来懺悔分斉

_ 拊,

05

06 05若入観及睡眠時応発此願等事 爾也 或有正発願至時得見等事 疑云入観者是入定之義 疑云発願時分即是散心歟何

可

07見仏歟答対シシ

睡眠,三昧時云発願

也故上云入観及睡

眠

也住定心

08 見 仏 -也 尋云此段本意往生与 見仏」中云 何為本」 敷答往生為本

事勿論

09

也然而今殊 見仏為本 也其 故、 於一 心称念求願往生 一行 者 <u>-</u> -挙ル 有,

Ŧi.

10 増

三正挙所化境

上縁 |也謂若称アミタ仏一声已下挙滅罪増上 縁 也十往生 褔 云已

下_^ 挙

ー 挙ヮ

已

11護念増上縁也又如无量寿経云已下挙摂生増上縁 一也又如ミタ経云

12下挙証 生增上 縁 _ 也 尋云如観念法門 | 者見仏縁第三 一也又道 理トシテ

滅罪

〈三十一丁左 (巻三)〉

01護念後可見仏,如何答次第尤可爾 |但今意存冥顕 差別 也謂見

03若称アミタ仏平已下亦如是等事 02仏者顕益故先挙之,也余四冥益故後挙之,也

04 上= 雖无心念」可得滅罪等益 | 歟答不爾 | 意地 尋云既礼念已下亦如是」爾者 必具 三心,為之安心,スラシテ 其

作业 : 称礼等/ / 行 可 **有**ル 益 也称念礼観等者安心上去行三 二業行也 疑 云

+

06往生経中不見廿五菩薩名如何答爾也指同聞衆廿五人菩薩等也

又彼仏

仏告山海 の印遣者釈迦ミタ中 何歟答彼経意釈迦也故観念法門(『セュ゙ハュ፷ロー) 云

|| 08恵菩薩及以阿難若有人,専念西方アミタ仏,願往生,者我従今,已

09使廿五菩薩影護行者,文 又如无量寿経云至必得往生等事 疑云

称

12自上古,至"于今,論師人師総"於安心,不存異義,也故今略之,也於11釈下至,十念釈十声,也 又至心信楽欲生我国句何不釈之,歟答10我名号者釈経何句,歟答乃至十念句也謂先標称我号,次乃至

起

〈三十二丁右 (巻三)〉

22有云称我名号者ナモアミタ仏也此可有安心起行,也 尋云彼仏今02有云称我名号者ナモアミタ仏也此可有安心起行,也 尋云彼仏今02行有諸行,有念仏,於念仏亦有定有散,故今首異,定観,釈出散称也

04此即三経一論大旨也 成仏已来凡歴千劫等意也 03釈意如何答釈定往生相貌,也諸仏本懐顕此釈,行者得益以之定也

06疑慮,称名也爰以諸師一同釈称名,也 難云経上文説光明无量寿05若有衆生……執持名号等事 尋云執持名号者観称中 何歟答不及

08明等之功徳,故云執持名号,歟孤山智円(紫雲寺)正釈執持つの命故名アミタ,指 彼云聞アミタ仏,歟若爾仮名論自性道理,観光

字』云信力故執

12自本仏経多合。可亘三業,故俱舎等性相云 名句文身依声仮立, 13義也持行名号,者必称為地体,也其上通観讚,事 不遮,也 10何偏云称名,歟答一往此難来 只云執持,不云称名,故然而持者行の受念力故住持,全不云称名,若爾正 観念為本,傍 通称名,歟 9受念力故住持,全不云称名,若爾正 観念為本,傍 通称名,歟

〈三十二丁左 (巻三)〉

05答心念也不及異儀,也 又行願中,何摂歟答安心上去行也 又証03疏等釈此文,時名身句身文身,身,通用上三,也。0.証称名義,也今所引文云名句文身,者名句文別也身者総也故影。2.証称名義,也今所引文云名句文身,者名句文別也身者総也故影。2.正称名,也爱以永観十因(《亞·磯·滕·美》)引依声仮立文,则故知執持名号尤可称名,也爱以永観十因(《亞·磯·滕·美》)引依声仮立文,则故知執持名号尤可称名,也爱以永観十因(《西·磯·滕·美》)引依声仮立文,则

誠

10次下文云至之所護念等事 09正身来守護随逐 08門護縁不引之, 歟答爾也但雖同意, 07護念此等言異 06与護念同異如何答同也今釈分明也又加持加備摂取摂受証誠 意同也而今釈証誠之面 云護念 也証生縁 疑云就護念義釈 護念縁正身来守護念縁 為証誠 _ 也 守護 一種義 尋云若爾何観念法 云護念 |敷答爾也上釈 也

護念

11即証誠之義,今正釈護念行者之様,也此即一法二義也

12今既有此增上誓願可憑等事 疑云増上者三縁中増上縁歟答不

1記:小論は、 願寺派史料研究所研究員の岡村喜史先生には、 は格別の御高配を賜りました。 る成果の 科学研究助成ならびに本願寺派教学助成財団の平成三十年度助成によ 一部である。 公益財団法人 三菱財団の第四十八回 また、 小論の執筆にあたり、 衷心より感謝申し上げます。そして、 翻刻にあたって貴重な (二〇一九年度) 金沢文庫御当局

付 御助言を賜りました。重ねて御礼申し上げます。

1 には、 たとえば、 十四世紀前半に制作された『法然上人行状絵図』巻四十八 注

0) を執して選択集に違背す。 覚明房長西は、 せざるところなり。 仁たりといへども上人の冥慮はかりがたきによりて、 上人没後に出雲路の住心房に依止し、 見ん人あやしむことなかれ こ の 〔行空・幸西・長西の〕 諸行本願のむね 三人 門弟の列に 随分名

4

明にせる法然上人が、 とあり、 て特に注目せられている」(『日本浄土教の研究』、 また、石田充之博士は、 に背いたことから、 一九七頁 (井川定慶 名誉の人ではあるものの、 ※傍線は筆者註) 『法然上人伝全集』、三一八頁上、※ [] 内・傍線は筆者註 . すでに法然の門弟から除外されていることが知られる 諸行念仏と対立せしめ、 「法然の廃捨した諸行を本願行と主張した人とし や 「聖道に対し浄土一宗の独立の旗幟を鮮 諸行本願義を説いて『選択集』の義 廃立の区別を明確にせら 百華苑、 一九五二

> て」(『法然門下の教学』、 教学の研究』 の主張は所謂聖道門的であり自力高調的である」(『法然上人門下の浄土 れたるに対し、 るとき、 つとめたことや、 ※傍線は筆者註)等と評している。 彼自らが果して念仏行者であったかどうかが怪まれるのであっ 安井広度博士は、 巻下、 再びその諸行を立てて本願の行と強調せられるだけ、 又生涯諸行本願義の宣布につとめたらしい形跡を顧み 大東出版社、 法蔵館、 「彼が種々に苦心して諸行非本願義の会通に 一九七九年、 一九三八年 [一九六八年複刊]、六十 一七 一頁 ※傍線は筆者註

- 説の長西教義考――「浄土疑芥」との比較を通して」(『仏教学研究』 の説の信憑性に問題があることについては、拙稿「『浄土法門源流章』 流における邪義・異端評価の成立背景」(『中央仏教学院紀要』二十八号、 七十三号、二〇一七年)、拙稿 一〇一七年)を参照されたい。 古来からの長西評価が第三者の説に依拠していることや、その第三者 「長西教学に関する一試論― - 法然聖人門
- 3 淳雄 善隆『産派液浄土宗学上の未伝稀覯の鎌倉古鈔本』(大正大学浄土学研究会、 論集』八十八号、 「長西の 金沢文庫より顕出された長西および九品寺流の典籍については、 九三三年 「長西の著作について」(『仏教論叢』 「諸行本願義」考 や、 二〇一六年)等を参照されたい。 前掲の石田博士の二書あるいは安井博士前掲書、 「浄土疑芥」を通しての再検討」(『宗学院 四十四号、 二〇〇〇年)、 吉田 塚本
- 書が伝存している。この点に鑑みて、 文庫には、 特徴と一致することから、 てきた。筆者は、 一〇二〇年)を参照されたい 撰号を欠いているため、 「称名寺聖教『往生礼讃光明抄』 永源書写・湛睿所持になる『観経疏光明抄』という長西撰述 後述する本書所説の思想が、 長西撰述で確定できると考えている。 厳密には撰者が詳らかでない。 について」(『仏教学研究』七十六号 顕出以来、 他の長西撰述に見られる 長西の撰述と推定され しかし、 詳細は 金

- 掲拙稿(二〇一六年)、七-八頁を参照。 表記を用いる。〈浄土疑芥〉に含まれる個々の典籍や概要については、前(5) 筆者は、金沢文庫所蔵の長西撰述書の総称として〈浄土疑芥〉という
- (6) 前掲拙稿(二〇二〇年)を参照されたい。
- 一九三五年)、一七一頁、安井博士前掲書、三十七頁。 | 抄研究の一問題」(大谷派本願寺宗学院宗学研究会編『宗学研究』十一号、(7) | 岸章二「盧宗文観経疏光明抄第五(?)と同第三の本文及びその解説と光明
- の如く解説されている。(8)『浄土宗大辞典』巻一(山喜房仏書林、一九七四年)、一六三頁には次(8)
- の著作であることがわかる。 の著作であることがわかる。 の著作であることがわかる。 の著作であることがわかる。 の者にこの書も撰述したと言われているが明らかでない。しかし、具 の者にこの書も撰述したと言われているが明らかでない。しかし、具
- (9) 『新纂浄土宗大辞典』(浄土宗、二〇一六年)、一七六頁。
- (10) 請求番号:九十六-一。
- (11) 四十六丁左。
- 九・一〜三(玄義分)。(12) 請求番号:九十八-二(序分義)、九十八-八・一〜三(定善義)、九十八-
- 想基盤」(『浄土宗学研究』十八号、一九九二年)を参照されたい。(3) 廣川堯敏「金沢文庫本『観経疏聞書』と『光明抄』――良忠教学の思
- (4) 前掲拙稿(二〇二〇年)に数例を紹介しているので参照されたい。
- の問題点に鑑みれば、十六丁は修理の際に混入したものと考えられるため、きるが、次の問題を指摘できる。すなわち、①直前までの文章は十七丁につながること、③明らかに別筆であること、②直前までの文章は十七丁につながること、③明らかに別筆であること、②直前までの文章とつながの、次の問題を指摘できる。すなわち、①直前までの文章とつながらない上に所釈の「八梵」は『礼讃』不出の文言であること、④裏打での文章は「八梵者是八解脱也」から始まる八行に亘る文言を確認で

混乱を避けるために翻刻しなかった。

- (16) 原則として、半葉十二行書きの体裁をとるが、八丁左のみ十三行書き
- したものと考えられるため、無視した。けるか次行に移るかの判断に迷い、途中まで書きながらも次行に書き直けるか次行に移るかの判断に迷い、途中まで書きながらも次行に書き直したものと考えられるため、次の文章を下に続

 $\widehat{17}$

18

- 十八丁左01-03は、原本では以下の如く記されるのを、入替符号と線 で入替指示あり。便宜上丸数字で入替指示箇所を示した(丸数字は挿入 で入替指示あり。
- (19) 原本には中略符号が記されているが、不自然である。十九丁左の11(19)原本には中略符号が記されているが、八替を指示する符号かもしれない。番が前後していることが分かるので、入替を指示する符号かもしれない。